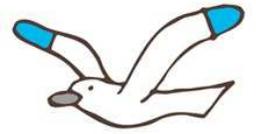


平成27年度エイズ予防財団助成事業実績報告書

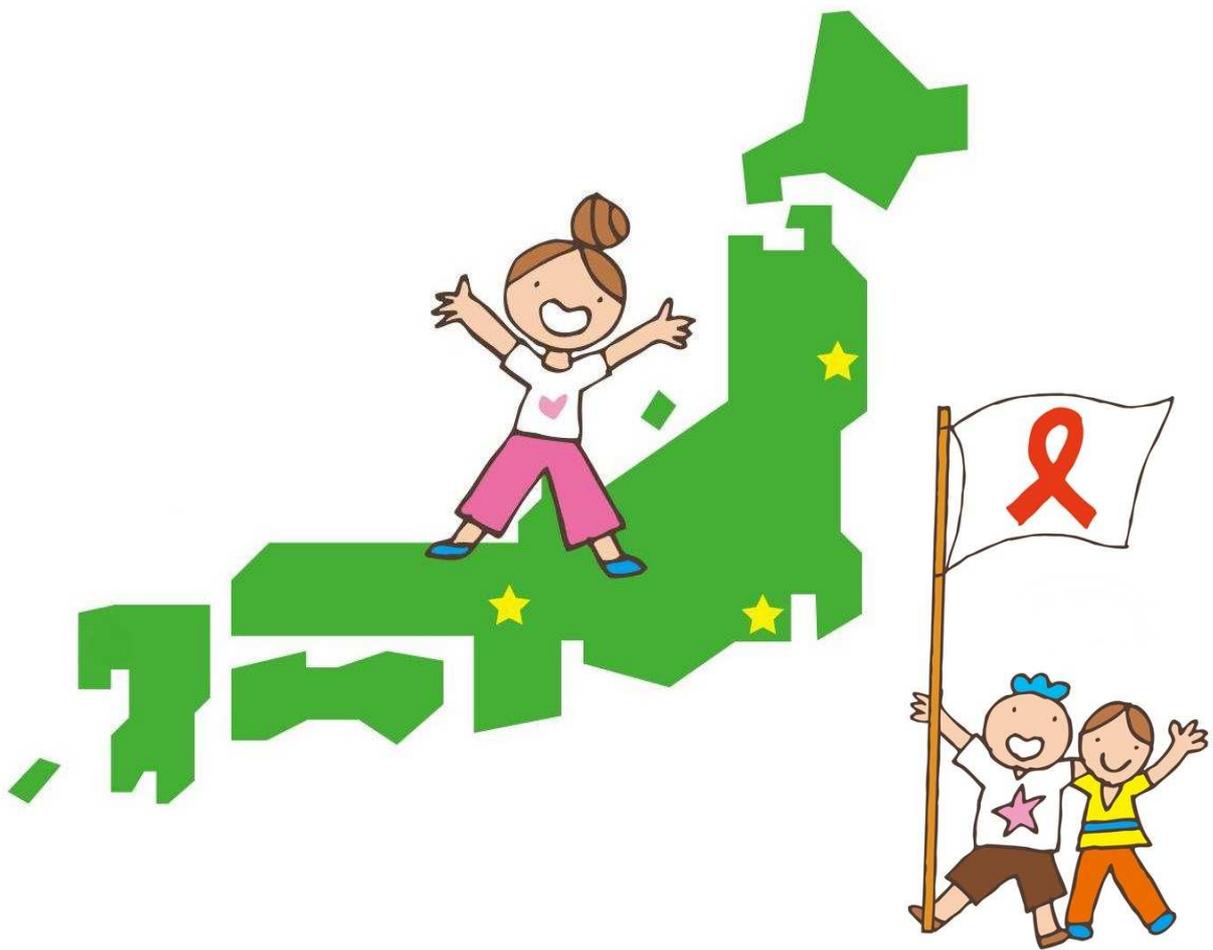
実施団体		AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会
実施事業名		横浜、京都、陸前高田、佐賀での「AIDS文化フォーラム」開催による普及啓発事業
団体代表者		組織委員長 田口努
事業の目的		<ul style="list-style-type: none"> ・「AIDS文化フォーラム」の開催を通じて、より多くの人にエイズについて知ってもらい、予防啓発を行うこと。 ・年間を通じて国内数か所でフォーラムを開催することにより、エイズ普及啓発の機会と啓発対象者の裾野を広げること。 ・エイズ関連の活動に関わる人たちをつなぎ、団体や担い手のエンパワーメントに貢献すること。
事業の達成度		<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀での開催が2016年6月となったが、AIDS文化フォーラムを「横浜(8/7～8/9)」、「京都(10/3～10/4)」、「陸前高田(11/22)」の3会場で開催した。またそれぞれの会場において、佐賀での取り組みを含んだ4地域のフォーラムの発表、ブース出展を実施した。 ・3会場での開催になったが、来場者目標の6,000人に迫る延べ5,201人の来場者を獲得した。 ・各会場で新たな発表団体の参加を得て実施することができた。各地域で活動する諸団体、地元地域以外で活動する諸団体と連携することで、地域のエイズ関連の諸活動団体(者)のエンパワーメント・連携、一般市民への啓発をより強めることができた。
事業実績	対象となった人数	<p>主な対象:各開催地を中心とした一般市民。HIV陽性者・エイズ患者などPWA/H、保健・医療関係者、教育関係者、行政機関関係者、国際団体、NGO/NPO関係者、青少年、セクシュアルマイノリティ等</p> <p>来場者:[横浜]3,701人 [京都]1,200人 [陸前高田]300人 参加団体:[横浜]54団体 [京都]30団体 [陸前高田]10団体 ボランティア:220人[横浜]70人 [京都]130人 [陸前高田]20人</p>
	具体的な活動内容	<p>【横浜、京都、東北での「AIDS文化フォーラム」開催】</p> <p>1. (第22回)AIDS文化フォーラムin横浜 開催日:2015年8月7日(金)、8日(土)、9日(日) 10:00～17:30(最終日16:00まで) 会 場:かながわ県民センター プログラム:発表プログラム48 展示ブース15 参加団体:54団体 入場者数:3,701人 ボランティア:70人</p> <p>2. (第5回)AIDS文化フォーラムin京都 開催日:2015年10月3日(土)、4日(日) 会 場:同志社大学及び同志社大学尋真館 プログラム:発表プログラム47、展示ブース16 参加団体:30団体 入場者数:1,200人 ボランティア:130人</p> <p>3. (第3回)AIDS文化フォーラムin陸前高田 開催日:2015年11月22日(日) 会場:陸前高田市コミュニティホール プログラム:健康の集いと同時開催、健康ステージ発表、記念シンポジウム、はまかだトーク 参加団体:10団体 入場者数:300人 ボランティア:20人</p>
活動の様子		<p>広がるAIDS文化フォーラム参照</p>

2015

広がるAIDS文化フォーラム 報告書



助成金:公益財団法人エイズ予防財団(平成27年度エイズ予防財団助成事業)



- ★ AIDS 文化フォーラム in 横浜 2015 **8/7**(金) - **9**(日)
- ★ AIDS 文化フォーラム in 京都 2015 **10/3**(土) - **4**(日)
- ★ AIDS 文化フォーラム in 陸前高田 2015 **11/22**(日)

AIDS 文化フォーラム in 横浜

2015 8/7(金)～9(日)

「今こそ、ともに生きる」

会場 かながわ県民センター
参加者 3,701人
プログラム 発表プログラム48 展示ブース15 交流プログラム2
ボランティア 組織委員、運営委員、イベントボランティア 70人
主催 AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会
共催 神奈川県
運営 AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会
事務局 公益財団法人 横浜YMCA

AIDS文化フォーラム in 横浜を振り返って…

(1) 開会式・オープニング「今こそ、ともに生きる」

当事者、学校と連携したセクシャリティ教育を行っている団体、福祉施設、普及啓発を行っている医師、それぞれの立場から「ともに生きる」社会の実現や、実現するための現在の課題、これから取り組めることなどについて、ともに考える時間となりました。

(2) 分科会

各団体、オリジナリティのあるプログラムで多くの来場者がありました。「今こそ、ともに生きる」のテーマに沿った講座が多く開催されました。平良愛香氏のセクシャルマイノリティと自身の体験談などを語った「牧師の僕がゲイでよかったこと」、「宗教とエイズPart.10」として、カトリック湯江教会 松田清四朗司祭、日本基督教団 平良愛香牧師、浄土真宗本願寺派浄誓寺 古川潤哉僧侶が登壇。自閉症の妹をテーマに撮影した「ちづる」上映と監督とのトークセッション、などの講座で多くの来場者を集めました。今年度は金曜日と日曜日に1時間枠を設け、「布ナプキン手作りワークショップ&お話し会」を企画したメイド・イン・アースや「おネエと語ろう！性感染症と予防のあるある」を企画した公益社団法人東京都臨床検査技師会などの初参加団体の分科会や、「アフリカのエイズ～青年海外協力隊員からの報告～」を行った横浜AIDS市民活動センターの分科会は、参加者を多く集めました。

(3) 展示場

京都、陸前高田、佐賀へと広がったAIDS文化フォーラムのパネル展「広がるAIDS文化フォーラム」を開催しました。今年度は展示場内に交流スペースを設け、参加団体と来場者の交流の場を作り、「AIDS文化フォーラムおみくじ」や来場者のメッセージを集めるコーナーを設置した。来場者から集まったメッセージは閉会式で紹介しました。

(4) 広域連携事業「広がるAIDS文化フォーラム」

京都、陸前高田開催にあたっては、AIDS予防財団からの支援を得て、「広がるAIDS文化フォーラム」の展示を各会場でも実施をしました。

11月30日～12月1日に開催した第29回日本AIDS学会一般演題では、「広がるAIDS文化フォーラム(その1～4)」を横浜、京都、陸前高田、佐賀の運営委員に関わっている岩室紳也氏、山田雅子氏、林しげる氏、古川潤哉氏が発表をしました。



エイズへの偏見 考えて

神奈川県で「文化フォーラム」

あすまで 60超える 講座・展示



幅広い視点からエイズについて考える「AIDS文化フォーラムin横浜」が7日、横浜市内神奈川区のかながわ県民センターで始まった。9日まで、関係団体が60を超える講座や展示を実施する。初日はオープニング企画として当事者らによるトークセッションが行われ、エイズに向けられる偏見や課題について考えた。

エイズウイルス(HIV)陽性者をつなぐNPO法人「ジャンププラス」代表の高久博さん(39)が司会役を務め、当事者の高久さんから登壇し、医師、性的少数者の支援者、社会から現実を受け入れてい

た。自身の中にもエイズの偏見があることに気づいたのは、東京・新宿2丁目で「特別に深刻な病気だ」という思いがあった。でも、感染後も変わらず仕事、恋愛を楽しく生活している自分がいる。本当は身近で普通の病気だということを知ってもらいたい」と話す。「人にうつる恐ろしい病気」といったイメージが拭き、HIV感染者の受け入れがなかなか進まない福祉施設の現状が報告された。

厚生労働省エイズ動向委員だによると、14年、新たに報告されたHIV感染者は1091人、発症したエイズ患者数は455人だった。フォーラムは午前10時、午後5時半(最終日は午後4時まで)、性や文化、医療、教育などさまざまな分野の講座や映画の上映が行

われる。入場無料。問い合わせは、フォーラム事務局 ☎045(662)3721。(服部 エレン)

「HIV感染者を平然と受け入れられる世の中であってほしい」と話す高さん(左)がかながわ県民センター



AIDS 文化フォーラム in 京都

2015 10/3(土)～4(日)

「エイズを知ろう エイズで学ぼう V」
～「どの部屋行く？」聴きたい話がきっとみつかる～

会 場	同志社大学 新町キャンパス 尋真館 3・4階
参加者	約1,200人
プログラム	発表プログラム47 展示ブース16
ボランティア	幹事、運営委員、サポートスタッフ 130人
主催	AIDS文化フォーラムin京都運営委員会
共催	京都府、京都市
運営	AIDS文化フォーラムin京都運営委員会
事務局	公益財団法人 京都YMCA

AIDS文化フォーラム in 京都を振り返って…

プログラムについて

(1) 開会式・閉会式

「～なぜAIDS? ～なぜ文化? ～なぜ京都?」と全体会の特定非営利活動法人ふれいす東京生島嗣氏による講演で、HIV/AIDSについてさまざまな角度から学び、考えることの大切さを共有しました。閉会式の全体会では、「AIDS文化フォーラム 横浜から全国へ～京都開催5回の振り返り」としてAIDS文化フォーラムin横浜運営委員の岩室紳也氏にお話いただき、AIDS文化フォーラム開催の意義を再確認する時間となりました。

(2) 分科会

[共に生きる] [予防] [文化] [セクシュアリティ] [教育] [保健・医療・福祉] [若者]をキーワードに多彩なセッションを行ないました。第1回から継続しているものに加えて今年から参加のセッションも増え、多くの来場者がありました。また、共催の京都市保健医療課によるHIV抗体即日検査(無料・匿名)を実施。50名が受検されました。

(3) 展示

横浜、陸前高田からの出展でAIDS文化フォーラムの広がりを紹介を行いました。共催の京都府、京都市も「京都府保健所のエイズ等予防教育」「HIV検査ってなんだろう?」「デートDV」についての展示や予防啓発ボランティアによるネイルアートを実施しました。

(4) 広域連携事業「広がるAIDS文化フォーラム」

昨年に引き続き、京都府北部発着の無料送迎バスを提供することで、京都府北部からも学生や養護教諭などの参加者がありました。11月22日開催のAIDS文化フォーラムin陸前高田での展示発表を行いました。

(5) プレイイベント ワット・コンサートツアー2015 “OH, WHAT LOVE” の実施

日時：2015年9月29日(火) 参加者：約400人。



エイズを知ろう エイズで学ぼう

「どの部屋行く?」 聴きたい話が きっとみつかる

第5回 AIDS文化フォーラム In 京都 2015 10.3 12:30-18:30 4. 10:00-17:30

同志社大学 新幹線大ホール

AIDS文化フォーラム in 京都 プレゼント "OH, WHAT LOVE" 9/29 18:30 開演 会場 京都府立府民ホール アルティ

無料 参加自由

ワト・コンサートツアー2015

「OH, WHAT LOVE」

9/29 18:30 開演 会場 京都府立府民ホール アルティ

ワト・コンサートツアー2015

「OH, WHAT LOVE」

9/29 18:30 開演 会場 京都府立府民ホール アルティ

AIDS 文化フォーラム in 陸前高田

2015 11/22(日)

「ともに生きる ～誰もが住みやすいまちに～」

会 場	陸前高田市コミュニティホール
参加者	約300人
プログラム	記念式典、表彰式、健康ステージ発表、記念シンポジウム、はまかだトーク
主 催	一般社団法人陸前高田青年会議所、陸前高田市
共 催	岩手県大船渡保健所



AIDS文化フォーラム in 陸前高田を振り返って…

1) AIDS文化フォーラム in 陸前高田と健康のつどいの同時開催について

陸前高田市は東日本大震災の前は33回連続で毎年健康のつどいを開催していました。しかし、震災後、様々な事情で再開することができませんでした。一方で、震災前に陸前高田市で開催されていたエイズのイベントは、AIDS文化フォーラム という形で震災から2年しか経っていない2013年に各方面からの協力を得て復活することができました。ただ、人口2万人余の陸前高田市だからこそ、HIV/AIDSだけに焦点を当てるのではなく、戸羽太市長が先頭に立って推進している**ノーマライゼーションという言葉がいないまちづくり**という視点に加え、**はまってけらいん かだってけらいん運動**という、人が集い、話すことでお互いのこころを癒すことの大切さを合わせて訴えてきました。陸前高田市コミュニティホールの完成を機に、健康のつどいも、AIDS文化フォーラムも、結局のところ目指していることは同じだということで、同時開催をするだけではなく、一見分野が違う人たちが同じステージに立ちそれぞれの立場から見えてくることについての話を伺う場としました。

2) 記念シンポジウム おらの健康・おらほの医療・これからの陸前高田

～ノーマライゼーションという言葉のいないまちづくり～

健康はその人らしく生きがいやつながり等、社会的に良好な状況であることが重要で、世界的に見れば医療貧困地区でも決して人々が不幸ではなく、その人と他の人が結びつく、つながりを持つことで人は健康になり、幸せを感じられます。震災前から若い人に向けて仕掛けていたイベントも、結果的には人と人をつなげることに繋がっていました。絆という文字は「きずな＝つながり、むすびつき」と、「ほだし＝手枷、足枷、束縛」という二つの意味があり、陸前高田市は絆（きずな）と絆（ほだし）がちょうどよくつながっている健康なまちだということを確認できました。

3) はまかだトーク 「はまかだ」は若者も高齢者もすくう

デートDVの予防も、認知症になってもその人なりの生活を確保するためにも、HIV/AIDSとともに生きる社会づくりのためにも、誰かに話すこと、はまかだをすることを通して、その後どうすればいいかが見えてきます。結局のところ**「はまかだ」が全ての基本**にありました。

**デートDV予防に 自己肯定感のために 健康づくりに 不安、困りごと解消に 認知症のトラブル防止に
エイズ予防に 共に生きるために 「はまかだ」**

- 失敗が怖い、傷つくのが怖いからこそ仲間と話そう！
- メール、LINE、カラオケ、ゲームはコミュニケーションではありません
- 寄り添い、時には騙されることも大事！
- 核家族化はコミュニケーション下手をつくる
- あいさつ運動、おしゃべりを大切に！



4) 展示

安田菜津紀写真展『カンボジア～HIVと子どもたち～』
 全国（横浜・京都・佐賀・陸前高田）AIDS文化フォーラム展
 AIDS展（岩手県大船渡保健所）STOP AIDS（陸前高田
 青年会議所）、はまかだ喫茶、健康測定、他

5) エンディング

中高生を中心に愛について応募
 いただいた詩を元に、まっと君
 に作成していただいた楽曲「あ
 りがとう」を会場の皆さんと手
 話をしながら一緒に歌い、会場
 が一つになり今回のイベントを
 締めくくりました。



平成27年度「AIDS文化フォーラム in 陸前高田」特別企画
 「みんなのアイがウタになる！～(あい)は地域を育てる！～」作成楽曲
ありがとう
 まっと (Funny Pig)
 あなたの後ろ姿をずっと追いかけていた
 一番近くにあるのに一番遠かったモノ
 「ただいま」「おかえり」ありふれていた
 言葉に愛があった
 君と僕と町とこの空と全部繋がっている
 ありがとう 君に ありがとう 心から
 目と目合わせて 手と手繋いで 共に今を生きよう
 ありがとう 君に ありがとう 心から
 笑顔と笑顔 心重ねて 共に今を歌おう

あなたの後ろ姿をずっと忘れないよ
 一番簡単なモノなのに一番難しいモノ
 「おやすみ」「またね」ありふれていた
 言葉に意味があった
 失ってから初めて気づく本当の愛の形・・・
 ありがとう・・・ ありがとう・・・ きっと同じ事つぶやくでしょう
 ありがとう・・・ ありがとう・・・ 同じ気持ちでいられるのならば
 くりかえし
 共に今を生きよう
 共に今を歌おう
 ラララ
 ラララ・・・



健康運動サークルたかた☆ハッピートゥエーヴは家庭でも実践しやすい「玉米ニギニギ体操」を披露



陸前高田青年会議所は平成17年度からエイズ予防などへの関心喚起を目的としたイベントの開催を続ける④、フィナーレを飾ったFunny Pigのライブ、住民らから募集したメッセージを生かした曲も響かせ、感動を呼んだ⑤



カメラがたかた☆ハッピートゥエーヴのライブ

健康のつどい・AIDSフォーラム 陸前高田



石巻の地域医療を支えて。看護師白衣の若菜も

ともに生きる みんなが主役

陸前高田市高田町の市コミュニティホールで22日、5年ぶりとなる第34回健康のつどい(市健康づくり推進協、市主催)が開かれた。趣向をこらしたステージ発表などを通じて、日ごろの地道な健康保持や仲間づく



レッドリボンととも、一人ひとりの心に響く言葉が添えられた



もの忘れチェックや塩分濃度測定など、自らの健康習慣を見つめ直す機会に



前の健康は子どもから。相談コーナーを設置⑥、記念コンボウムでパネラーを務めた安田菜津紀さんの写真展『カンボジア～HIVと子どもたち～』⑦

第34回 健康文化都市 陸前高田市
健康のつどい
 はまかた だつて つながって ～みんなで輝く陸前高田～
AIDS文化フォーラム in 陸前高田
 ともに生きる～誰もが住みやすいまちに～

広がる AIDS文化フォーラム



予定

- in佐賀 2016年 6月25日(土)~26日(日)
- in横浜 2016年 8月 5日(金)~ 7日(日)
- in京都 2016年10月 1日(土)~ 2日(日)
- in陸前高田 2016年11月20日(日)